

# 4 市のうつりかわり

1

## 市の様子<sup>ようす</sup>の うつりかわり

### 京街道

きょうとむ へい とう  
京都に向かう道のこと。江戸  
じだい さんきんこうたい  
時代に参勤交代で使われていた。

### かわってきたわたしたちの市

わたしたちのまちや人々の<sup>ひとびと</sup>くらしはどのよ  
うにかわってきたのでしょうか。



「100年ほど前の<sup>えきまえ</sup>駅前には車がない  
ね。」



「今は<sup>きやく</sup>かんこう客を<sup>ばん</sup>むかえるかん板が  
あるよ。」



「昔の<sup>むかし</sup>京街道は、<sup>きょうかいどう</sup>今とくらべて道がせ  
まいね。」

### みやづ ●宮津駅前のうつりかわり



↑100年ほど前



↑30年ほど前



↑今

### ●京街道のうつりかわり



↑100年ほど前



↑30年ほど前



↑今

●うめ立てが進む海ぞいの地いき

今から 50 年ほど前



今



「海の形がかわっているのはなぜだろう。」



「市の土地の使われ方はどのようにかわってきたのかな。」



🕒 100 年ほど前の宮津小学校

市役所の人からの手紙



宮津のまちは、細川氏によって宮津城がつくられた後から、城下町としてはってんし、日本全国の船が集まる港町としてもにぎわいました。

土地がせまかったことから、江戸時代から海のうめ立て工事がくり返し行われました。1985(昭和 60)年にうめ立てられた場所に、ミップルや道の駅、体育館などもたっています。それ以前は、国道 178 号のあたりまで海が入りこんでおり、海岸にそって旅館などがたっていました。



🕒 100 年ほど前の島崎公園 うめ立てられる前の海で水泳のじゅ業をしている様子です。



🕒 うめ立ての様子

## 道具とくらしの うつりかわり



日本庭園



書院造の部屋



三上家で使われていたたんす

大こしきは、  
何に使ったの  
かな。



旧三上家住たく

### 旧三上家住たく

三上家は、江戸時代には「元結屋」という屋号でよばれていました。宮津城下では有名な商家としてさかえ、酒造業・廻船業・系問屋などをしていました。今の住たくは1783（天明3）年にたてられたものです。

2003（平成15）年に国の重要文化財に指定され、「旧三上家住たく」とよばれ、大切にほぞんされています。



大こしき



お店で売られていた品物



旧永島家住たく

## ながしま 旧永島家住たく

きょうと ふりつたん ご きょうど しりょうかん

京都府立丹後郷土資料館（ふるさとミュージアム丹後）に旧永島家住たくがあります。

この家は1840（<sup>てんぼう</sup>天保11）年にたてられ、  
<sup>きょうたん ご</sup>京丹後市丹後町からうつしたものです。<sup>ようさん</sup>養蚕  
<sup>のうぎょう</sup>や農業を中心とした<sup>おおじょうや</sup>大庄屋でした。



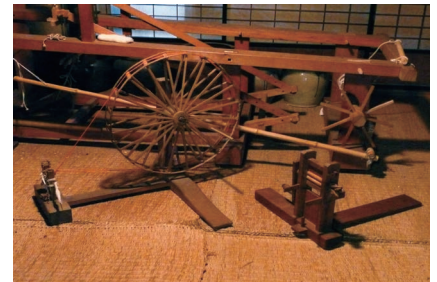
五右衛門ぶろ ふろがまを直火であたためるふろのことです。ふろのそこが熱くなるので、木のふみ板あつやそこ板いたをしずめて入ります。



なわない機



とうみと回転だっこかいてんき機 お米などにまじったもみがら（中身なかみのないもみ）やちりなどを、風を送ってより分ける道具です。



糸車とわたくり機



かまど



だいどころようひん  
台所用品



どのようにしてなわをなうのだろう。